

令和2年2月定例会 一般質問（概要）

令和2年3月6日（金）

質問者：横倉 廉幸 議員



（横倉議員）

今議会の一般質問も私で最後ということになりました。

さて、議員の皆さんはもとより、この議場におられる方々は、立场上結婚式の披露宴に招待されることが多いと思います。

古くからある結婚式のスピーチの定番に「人生には三つの坂がある」という話があります。

人生には、何事も順調に行っているときの「上り坂」、また、何をしてもうまくいかないときの「下り坂」、そしてもう一つの「坂」は、思いがけないことが起こる「まさか」という「坂」があるという話で、これからの人生、新郎新婦ふたりで力を合わせてさまざまな坂を乗り越えていってくださいということです。

近年は思いがけない大災害や今回のコロナウイルスなど、この「まさか」が多く起こっています。この三つ目の坂「まさか」の時こそ国や地方自治体、政治家、そして、個々人の力量が最も試される時です。

もう一つ、我々には守っていかなければならない大切な坂、「大阪」があります。いま

大阪のこの「まさか」の事態に、ともに力を合わせて、険しい「坂」を乗り切っていこうではありませんか。

1 万博に伴う水上輸送・交通の整備

(1) パークアンドライドの積極的な活用と水上交通の導入について

一昨年(2023)の11月23日深夜、BIE総会で2025年開催の万博がどの国に決定するのかを中之島センタービル二階のパブリックビューイングで多くの関係者の皆さんと一緒に中継を見ていました。決定の瞬間、全員が悲鳴のような歓声を上げ万歳したのが昨日のこの様に思い出されます。もちろんそのときは大阪市長として吉村知事も現地に行ってその感激をより感じられたものと思います。

早いものであれから一年以上が経過し、開催に向けて着実に動き出しています。

そこで、まず、万博会場である夢洲へのアクセスについてお聞きいたします。

2025年に夢洲で開催される万博では、多くの来場者を見込んでおり、アクセスとしては、空路・陸路・海路等が有ります。

陸路の電車は地下鉄中央線一本、しかも六両編成であり、便数を増やすということですが、混雑が予想されます。また、夢洲に向けて自動車交通も集中することになります。

会場は大阪市中心部から近く、多くの車が市内中心部に流入することにもなり混乱を招きかねません。

そこで、流入する車両を極力少なくするために、マイカーを万博会場、市内中心部の外に設置する駐車場に停めて、そこからシャトルバスに乗り換えて会場まで移動してもらう、いわゆるパークアンドライドを積極的に活用することが必要です。

また、今回は千里万博と違って夢洲というウォーターフロントでの開催であり、水上交通を積極的に取り入れるべきです。

たとえば、関西国際空港から海路で夢洲へ、また、西日本方面からくる車は神戸港や尼崎港などに駐車し、そこから水上交通によって万博会場へ向かうようにする、こういった取組みが大阪市内中心部や会場への車の流入を減らすことになります。

そして、何よりも水都を標榜する大阪にとってふさわしい万博会場への交通機関となります。

そこで、万博来場者へのパークアンドライドの積極的な活用と、水上交通の導入について政策企画部長にお聞きいたします。

(政策企画部長答弁)

○ 大阪・関西万博では、会場周辺の渋滞を緩和するため、会場へのマイカーの乗り入れを原則禁止し、パークアンドライドを活用することとしており、博覧会協会において、会場外にいくつかの駐車場を確保する予定です。

○ また、水上交通の導入については、夢洲のロケーションを活かした水都大阪を強く印象づけるものです。

大阪市では、来年度予算案に、船舶の係留施設の設計費用を計上しており、現在、協会において、関西国際空港などから夢洲へ向かうシャトル船の導入に向けた検討を進めて

います。

○ 府としても、パークアンドライドに必要となる駐車場用地の確保や、水上交通の導入に向けた近隣府県との情報交換を進めるなど、引き続き、協会と連携して取り組んでいきます。

(要望)

水都大阪を世界に示す絶好の機会と考えます。
万博会場への水上交通の積極的な活用について、是非とも実現に向けた検討をお願いいたします。

(横倉議員)

(2) 中之島ゲートについて

私は、昭和60年12月の補欠選挙で大阪府議会議員に当選して以来、議員としてのライフワークに「水都大阪の再生」を中心とした活動をしてまいりました。昭和61年の9月議会で議員になって初めての一般質問では「西大阪における河川環境の整備」や「高潮対策」を取り上げ、また、63年の委員会では「河川敷の管理とその有効利用」を訴えました。

それ以来、府としても水都再生に関して様々な取り組みを行い、30年前とは大きく水辺環境も変化し、水都大阪として相応しい様相になってきました。

特に、今年1月に一部オープンした「タグボート大正」は、河川敷を有効利用した新たな取り組みとして、やっこここまで来たという思いで感激しました。

2025年の大阪・関西万博の会場も、IRの予定地もウォーターフロント夢洲でということで、これからの大阪はますます水都として大いに活性化することになります。

府・市においてはこれまで、中心部を流れる川や中之島の整備、橋梁のライトアップ、また大阪城の船着場の整備等、魅力ある水都大阪の景観を創造してこられました。

しかし、残念ながら大阪市の中心部を流れる川に架かる橋は低く海から来た船は入ることができません。

そこで、私は中之島ゲートエリアの川口地区の活用をこれまでも何度となく取上げてきました。この川口地区については、一昨年的一般質問や委員会においてその歴史を詳しく話しましたが、初めての方もおられるので時間の関係上、簡単にお話しさせていただきます。

川口は、大阪湾に流れ込む安治川の最上流にあり、その上流は中之島を挟み堂島川と土佐堀川に分かれ、その上流は大川となります。

この川口は、江戸時代から大阪における水運物流の中心地であり、そのことから幕末の慶応3年(1867年)には、大阪税関の前身である川口運上所が設置され、後の初代大阪税関長、初代大阪商工会議所会頭となる、大阪の恩人と称される五代友厚が外国官判事として赴任した場所です。

明治維新後、大阪港として開港したのがこの川口で、その東には居留地が出来、その東を流れる木津川の対岸には、明治7年(1874年)に大阪府庁舎、明治32年(1899年)には大阪市庁舎が置かれるなど、大阪の文明開化や行政の近代化において中心的な役割を果たした重要な地域です。

この川口地区を含む地は大阪、日本の近代史の重要な地点でありました。

安治川は、その河口にはUSJや海遊館があり、その先には万博の開催地である夢洲があります。

この中之島ゲートエリアこそ、万博会場やUSJ、海遊館などと大阪市内の大阪城、中之島、水の回廊をつなぐ重要な場所です。

そこで、2025年まであと5年に迫った今、中之島ゲートエリアの整備を進めていくべきと考えますが、府民文化部長のご所見をお伺いいたします。

(府民文化部長答弁)

- 府では、大阪のレガシーである水都の魅力をさらに高められるよう、水辺の魅力空間づくりや舟運活性化に取り組んでいます。
- 中之島ゲートエリアは、歴史上重要な場所であるとともに、海遊館やUSJといった集客施設を有するベイエリアと、水都大阪の水の回廊をつなぐ重要な位置にあり、これまでも中之島の東西軸の活性化の観点から、中之島ゲートエリアを川と海の結節点として、その活用方法の検討を進めてきたところです。
- また、夢洲で万博が開催される際、当エリアは、海の船と川の船の乗換えターミナルとして大きな役割を果たしうるものと認識しています。
- この中之島ゲートエリアが、夢洲の万博会場を訪れた人々を道頓堀や大阪城といった観光名所に運ぶことができるにぎわい拠点となるよう、具体的なプランを検討してまいります。
- 今後とも、水都大阪が世界第一級の観光拠点となるよう、しっかりと取り組んでまいります。

(横倉議員)

よろしくお願ひいたします。



(横倉議員)

2 府立図書館の活用促進

(1) 有効活用に向けた取組み

さて、私の母校である小学校が昨年創立 100 周年を迎えました。

その記念誌に卒業生として何か思い出話をとの依頼がありました。

私は、「学校の図書室は魔法の部屋」というテーマで、学校の図書館でいろいろな本を読み、本に書かれているさまざまな国や時代を旅し、いろいろな人物にも出会うことができた、そのことが自分自身の人間形成に大きく影響した、ということを書きました。まさに「図書室は魔法の部屋」です。

そこで、魔法がいっぱい詰まった図書館、についてお伺いしたいと思います。

近年、公共図書館は、その利用目的や提供するサービス内容が以前と比べて、大きく変化してきています。

かつては本を読んだり、借りるためだけの場所と考えられてきましたが、現在では、駅前などのアクセスしやすい場所への設置や、公共施設の集約化、複合化などの動きと相まって、さまざまな人が集い、地域の人々の交流が生まれるコミュニケーションづくりの場として、必要不可欠な施設となってきています。

こうした住民生活に密着した図書館への期待に応えるため、府立図書館では、どのような取組みを行っているのか、教育長にお伺いします。

(教育長答弁)

- 府立図書館では、図書の閲覧・貸出サービス以外にも、住民生活に密着した図書館をめざして、様々な取り組みを行っています。
- 具体的には、貸会議室、グループ読書エリア、カフェスペース、電子機器の充電などができるリフレッシュルームを設置するとともに、無料Wi-Fiによるインターネット利用サービス、空き室を活用した自習スペースの提供などをおこなっています。
- こうしたハード面の整備とともに、生涯学習の拠点として、高齢者の関心が高いテーマを設定した連続講演会の開催、エントランスホールを活用した各種イベントを実施するとともに、子どもを対象とした「おはなし会」を実施するなど、サービスの充実にも努めているところです。

(横倉議員)

(2) 府立中央図書館における収蔵能力確保のための取り組み

地域の人々の交流に役立つさまざまな取り組みが行われているということなので、引き続きサービスの充実に努めていただきたいと思います。

特に、府立図書館の中でも中央図書館は公立図書館としては日本一の蔵書数を有し、その豊富な資料に基づいて全国でもトップレベルのレファレンス（調査相談）サービスを行っていると聞いています。

また、大阪府職員を対象として、豊富な資料やデータベースを活用し、業務に必要な情報を提供する政策立案支援サービスを実施していますが、その利用は年間600件近くあると聞いており、非常に有効活用されていると思います。

一方、地域の交流の拠点、また、情報の拠点としての役割を果たすことも必要ですが、私は「読書に親しむ」という図書館本来の役割も、しっかりと果たしていただきたいと思います。

そのためには、収集した資料を、将来にわたって適切に保存していくことが何よりも重要です。

前回の9月議会において、中央図書館の書庫はあと5年程度で収蔵能力が限界を迎えるとの議論がありましたが、図書館としては、収蔵能力を確保するために、これまでどのような取り組みをしてきたのか教育長にお伺いいたします。

(教育長答弁)

- 中央図書館の地下書庫は、開館当初は一部のエリアに固定式の書架が設置されていましたが、収蔵能力を高めるため、平成22年に電動式の集密書架を導入しました。
- また、書庫スペースの有効活用に向けて、令和4年度中を目途に、旧夕陽丘図書館と中之島図書館から移管した資料のうち、重複している資料の精査と整理を進めているところです。

(要望)

図書館は夢を育んだり、居場所となりうる場所であると同時に、読書を通じて知見を深め、人生を豊かにすることができる場所であると考えます。

そのような図書館を日常生活の中でより多くの府民が活用できるようにと、あらゆる人を対象にさまざまなサービスを提供していることがわかりました。

引き続き、地域の交流の拠点、情報の拠点としての機能を強化するとともに、より一層のサービス向上を図っていただきたいと思います。

また、収蔵能力の確保に対しては、これまで資料の収蔵スペースを確保するためにさまざまな取組みをしていることもわかりました。

しかし、重複資料の整理が終わった後、書庫の空きスペースの減少ペースが加速することが容易に想定され、収蔵能力の限界が来る時期を先延ばしにしているにすぎません。

引き続き、府立図書館が府民ニーズに応じた役割を果たしていくためにも、先の議会でも教育長より収蔵能力の確保に向けて調査を進めていくとの答弁がありましたが、抜本的な対策を講じなければならない時期を迎えているとの観点に立ち、しっかりと取り組んでいただくことを申し上げまして、この質問を終わらせて頂きます。

最後に、この3月でご勇退される、岸本福祉部長・西田商工労働部長・金田会計管理者兼会計局長におかれましては、長年にわたり府政の発展にご尽力され、職責を全うされてこられました。これまでの長年の御労苦に対し心からの敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

今後とも、これまで培われたご経験を活かし大阪発展のためにご指導、ご鞭撻を賜りますことをお願いいたします。

